

市民が集う「野鳥の森」の再生を目指して
11/24 (土) 第3回「千葉市植樹」を実施

1,000名のボランティアの皆さまと8,000本を植樹

千葉市（市長 熊谷俊人）と公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役 以下、当財団）は、11月24日（土）、第3回「千葉市植樹」を実施します。

千葉市と当財団は、2016年2月に「千葉市における森林整備に関する協定」を締結し、3年計画で植樹を行っています。第1回は「富田都市農業交流センター」にて、第2回は「泉自然公園」にて植樹を実施しました。最終回となる今回は、第2回に続き同公園で1,000名のボランティアの皆さまと8,000本の植樹を行います。これにより、3年間の植樹本数は、合計25,000本となります。

1969年に開園し、広大な敷地に森林・草原・水辺等の多様な自然環境を有する「泉自然公園」は、桜や紅葉の名所として、また自然学習やレジャーの場として長く多くの方々から親しまれてきました。一方で、溝腐れ病で倒木の危険性が高いスギが多くなっていたことから、今回の植樹は、これらのスギの跡地に自然と安全にふれあうことができる「野鳥の森」の森を再生することを目指し、実施するものです。

千葉市と当財団は、地域の豊かな自然と人々のくらしを守るため、これからも植樹活動をはじめとする環境保全活動に取り組んでまいります。

記

日時：2018年11月24日（土） 10:00～12:00

場所：千葉市若葉区野呂町108 「泉自然公園」

参加人数：1,000名

植樹本数：8,000本

樹種：クヌギ・コナラ・サクラなど21種

植樹面積：0.82ha

主催：千葉市・公益財団法人イオン環境財団

協力：千葉市森林組合・イオンリテール株式会社

主な出席者：千葉市 市長

熊谷 俊人

（予定）公益財団法人イオン環境財団 理事長

岡田 卓也

イオン株式会社 取締役兼取締役会議長

横尾 博

イオンリテール株式会社 代表取締役社長

岡崎 双一

以上

ご参考

【公益財団法人イオン環境財団について】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと1990年に設立されました。設立以来、環境活動に取り組む団体への助成や、国内外での植樹生物多様性への取り組みを主な事業として、さまざまな活動を継続しています。イオンの植樹は1991年のスタートから数え、当財団の植樹本数を合わせて累計1,166万本（2018年2月末時点）を超えています。（イオン環境財団ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>）

■植樹事業

各国政府や地方自治体と協力し、自然災害などで荒廃した森の再生させることを目的として、アジアを中心とした世界各地で植樹を行っています。2018年度は、国内では全国植樹祭ふくしま、三重県松阪市植樹、宮城県亘理町、宮城県「綾町イオンの森づくり」、大分県竹田市、千葉県千葉市、沖縄県植樹、海外では中国・北京市、ミャンマー・ヤンゴン、インドネシア・ジャカルタ植樹において植樹活動を実施します。

【千葉県における植樹活動】

2016年・2017年「千葉市植樹」

2016年5月に、千葉市富田都市農業交流センター（千葉市若葉区）で第1回「千葉市植樹」を実施しました。地域の皆さまやイオンチアーズクラブの子どもたちなど、1,200名のボランティアがクヌギ、コナラ、山桜などの広葉樹8,000本の苗木を植えました。2017年11月には、「泉自然公園」（千葉市若葉区）で第2回となる植樹を実施しました。地域の皆さまやイオンチアーズクラブの子どもたちなど、800名のボランティアがクヌギ、コナラ、山桜などの広葉樹9,000本の苗木を植えました。



2017年 千葉市植樹

2013年～2015年 千葉県「浦安市植樹」

東日本大震災時の液状化で噴出した土砂の処理が深刻な課題となっていたことを受け、この土砂を土壌の盛土として活用する植樹活動を実施しました。2013年から2015年の3年間の活動を通じ、2,100名のボランティアと合計18,000本の苗木を植えました。



2015年 浦安市植樹

■助成事業

【環境活動助成】

1991年より26年間「生物多様性の保全と持続可能な利用」のため、国内外の地域において、積極的に環境保全活動を継続している団体への助成支援を行っています。2017年度は、植樹、森林整備、砂漠化防止、里地・里山・里海の保全、湖沼・河川の浄化、野生生物の保護絶滅危惧生物の保護などを行う団体102件に、9,500万円の助成を行い、累計では2,846件、総額25億9,200万円となりました。2018年度も継続して環境活動への助成を実施します。

■連携事業

【生物多様性アワード】

生物多様性の保全と持続可能な利用の推進を目的として、「生物多様性みどり賞（国際賞）」と「生物多様性日本アワード（国内賞）」の2つのアワードを創設。隔年で開催し、顕著な環境保全活動が認められる個人・団体を顕彰しています。2017年度は第5回「生物多様性日本アワード（国内賞）」、2018年度は第5回「生物多様性みどり賞（国際賞）」を実施しました。



第5回「生物多様性みどり賞」受賞式

[早稲田大学との連携事業]

生物多様性を越えて (Beyond Biodiversity)]

国際的な視野で生物多様性の価値を問い直し、新たな価値共有ができる教育を行うことを目的とするプログラムを実施しています。2016年10月6日～10月7日ベトナム国家大学ハノイ校で初めて開催しました。本年は9月23日(日)に、インドネシア大学(インドネシア)にて開催しました。



第3回生物多様性を越えて
(インドネシア大学)

[東京大学IR3S イオン未来の地球フォーラム]

地球の環境変化や環境問題について、参加者とともに解決方法を考え、実行案を議論し、講演と対話型パネルディスカッションにおいて理解を深め、成果をまとめる「イオン未来の地球フォーラム」を開催しています。

2019年2月2日(土)には、東京大学安田講堂にて、「第3回イオン未来の地球フォーラム」の実施を予定しています。



第2回イオン未来の地球フォーラム(東京大学)

■環境教育事業

[アジア学生交流環境フォーラム(ASEP)]

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的として、アジア各国の大学生が集い、各国の自然環境や価値観の違いを学びながら地球環境について国境を越えて討議をする、「アジア学生交流環境フォーラム(ASEP)」を実施しています。

2018年度は、「熱帯雨林からの贈りもの」をテーマに、王立プノンペン大学(カンボジア)、清華大学(中国)、インドネシア大学(インドネシア)、早稲田大学(日本)、高麗大学校(韓国)、マラヤ大学(マレーシア)、ベトナム国家大学ハノイ校(ベトナム)、チェラロンコン大学(タイ)、ヤンゴン経済大学(ミャンマー)の9ヶ国合計72名の学生が参加し、8月2日～5日の期間、マレーシア・クアラルンプールで開催しました。



第7回ASEP開講式(マラヤ大学内)

[太陽光発電システム寄贈]

再生可能エネルギー活用の啓発・普及および環境教育を目的に、国内外の小中学校へ「太陽光発電システムの寄贈」を2009年から行っています。2017年度までに、日本、マレーシア、ベトナム、中国の合計45校に寄贈しました。2018年度は、香港の小中学校3校に寄贈しました。



2017年太陽光発電システムの寄贈(中国・武漢)



2010年太陽光発電システムの寄贈
(千葉県鴨川市立鴨川中学校)